

第 2 学年 2 組英語科学習指導案

1 単元名 「 Unit 7 The Movie Dolphin Tale 」 (全 12 時間)

2 本 時 平成 31 年 2 月 18 日 (月) 第 5 校時 2 年 2 教室

3 本時の指導観

生徒は前時までに、比較表現 (...er, the ...est) の用法を学習している。本時では比較表現 (more, the most) の用法を学習する。まず、日本語の比較表現を英作文させ、英語の比較表現には (...er, the ...est) 以外に別の用法があることに気付かせたい。そして、例文の口頭練習を多く練習させ、その表現に慣れさせたい。

4 主眼 比較表現 (more, the most) の用法を理解し、表現できるように指導したい。

5 準備 学習プリント 英文カード

本時の展開

段 階	学習活動・学習内容	具体的な支援	評価の観点 (方法)
つ か む	1, あいさつ	・ 英語でのあいさつにより授業の雰囲気作りをする。	
	2, 前時の復習 ①比較表現 (...er, the ...est) の用法の復習する。 2, めあての確認 ①英作文の問題をする。 ・「京都は奈良よりおもしろい」 ・「八橋が一番人気がある。」 ②めあての確認をする。	・ 絵やもの使って、想起の手助けとする。 ・ 小集団で問題に取り組みせ、容易に問題解決できるようにする。	
さ ぐ る	more, most を使って、比べる言い方を表現できるようにしよう。		
	3, 比較表現 (more, the most) の用法を学習する。 ①教師の説明を聞く。 ②学習プリントで (more, the most) の比較表現の文を書く。その後、口頭練習をする。 ③ペアで (more, the most) の英文を会話形式で練習する。 ④問題を解いて、(more, the most) の文の用法を確認する。 4, (more, the most) の文を班で作る。 ①英文を作る。 ②自己表現文を友達と交流する。	・ 生徒がスラスラ言えるまで練習させる。 ・	・ きちんと言えるかどうか。 ・ 班で協力して課題に取り組んでいるか。
ま と め る	まとめ つづりの長い形容詞の比較級、最上級は、< more, most > を使う。		
	5, 次時の予告 6, 終わりの挨拶をする。		

【授業の実際】

○つかむ段階について（既習事項とのズレ・隔たりから内面に生じた問い・課題を設定する場面）

生徒は前時まで、比較表現（...er, the ...est）の用法を学習している。そこで本時の導入では、前時の復習しそれから比較表現を表す日本文を2つ与えそれを英訳させるという形を取った。

□課題英作文

1. 京都は奈良よりおもしろい。
2. 八橋が一番人気がある。



○さぐる～深める段階について（思考ツールを活用して自己内対話をする場面）

I. 班単位でその課題に取り組み、学習プリントを見ながら、生徒たちは課題に取り組んだ。

□各班の英文

- 1 Kyoto is interestinger than Nara.
- 2 Yatsushashi is the popularest. etc.



II. この後、英語の比較表現には（...er, the ...est）の用法以外に用法があること説明し、新しい比較表現の導入を行った。

□新文型の導入

- 1 Kyoto is more interesting than Nara.
- 2 Yatsushashi is the most popular.



III. プリントで新文型の運用練習に取り組み、その定着を図った。

○まとめる段階について（自分の言葉でまとめる場面）

最後に問題に取り組み、新文型の理解の確認と要点の整理を行った。多くの生徒は容易にこの問題に取り組んでいた。そして、既習の（...er, the ...est）の用法と混同する生徒はいなかった。

<さて、たしかめ>

- 1 This car is more ____ ____ that car.
(この車は、あの車より人気があります。)
- 2 This book is ____ ____ ____ that book.
(この本はあの本よりおもしろい。)
- 3 This song is ____ ____ ____ in Japan.
(この歌は日本で一番人気があります。)

【授業の考察】

前時の比較表現（...er, the ...est）の用法を復習し、比較表現を表す日本文を2つ与えそれを英訳させるという導入は効果があったと思う。班単位で行ったが、学習プリントを見ながら班員みんなが課題に一生懸命取り組むことができた。しかし、授業内容が問題解決で終わったため、新文型現（more, the most）の用法が自己内在化したかどうかについては疑問が残ったと思われる。

【成果と課題】（授業整理会およびチェックシートから明らかになったこと）

（成果）☆導入は効果的であった。

☆課題に班で取り組ませた場面は活動的で良かった。

（課題）★自己表現まで授業が展開されなかったことは残念であった。